

料金別納  
郵便

ゆうメール

SEIHO-DOSOKAI

# 青峰同窓会

会報  
2020年号



亀山市関町(関宿)

## INDEX

会長挨拶	1
校長挨拶	2
卒業生からの便り	3
■ 鈴鹿高専親睦ゴルフ大会	
■ 俳句	
■ 高専祭開催時の親睦会のご案内	
■ 2019年度青峰同窓会会計報告	

退職教員挨拶	7
■ 長原 滋(生物応用化学科)	
■ 奥田 一雄(電気電子工学科)	
■ 近藤 一之(電気電子工学科)	
新任教員挨拶	10
■ 笹岡 伸矢(教養教育科)	
■ 佐藤 弘一(電子情報工学科)	
■ 黒飛 紀美(材料工学科)	
■ 河合 里紗(材料工学科)	
お知らせ	12
■ 鈴鹿高専テクノプラザ支援事業	

誌名  
青峰同窓会会報

発行日 2020年8月  
発行 国立鈴鹿工業高等専門学校 青峰同窓会 広報委員会  
〒510-0294 鈴鹿市白子町 TEL059-386-1031 E-mail:almn@suzuka-ct.ac.jp



## ご挨拶

青峰同窓会 会長  
**小手川 智**  
 (42C卒)

同窓会員の皆様にはお変わりなくご健勝のことと存じます。

令和二年は年初より新型コロナウイルスによって国内、海外ともに感染が広がりパンダミックとなり大きな社会不安に陥っています。

私が鈴鹿高専を1967年卒業して2020年までの間、1973年の第一次オイルショック、1979年の第二次オイルショック、1991年~1993年のバブル崩壊、2008年のリーマンショック等の経済不況を経験しておりますが新型コロナショックはウイルス感染による先の見えにくいものとして捉えられております。経済不況のみならず個人や家族の健康にも大きな不安材料となっております。同窓会員(特にシニア世代)の皆様にはご自愛ください。

新型コロナウイルスの影響で母校も大きな影響を受けております。入構禁止となり、授業はオンラインとなっております。対面授業は9月以降の予定です。

学生寮は閉寮、部活動も当然出来ず、第2学年の研修旅行(シンガポール)は延期となり本来ならば青春真只中できらきら輝いているはずの学生諸君には誠に気の毒であります。一時も早く普通の学生生活がおくれる事を祈念いたします。

鈴鹿高専テクノプラザの近況についてご報告いたします。

卒業生が中心メンバーとなって地域密着型の産学官連携の「ものづくり技術の支援」を目的として平成25年に会員数31社で設立。令和2年3月時点で企業会員128社、個人会員18名、特別会員13団体の規模に

拡大しております。

個人会員は卒業生が主に登録されております。詳細はHPをご覧ください。

企業会員、個人会員を現在も募集しておりますので是非、母校応援の一助としてご参加頂ければ幸いです。今年度から卒業生のUターン支援も開始します。様々な理由で三重県に移住を考えておられる方はご相談ください。

ここ数年に亘り災害について記述してきましたが、今年も九州地区で豪雨災害が発生しました、地震も小規模ですが多発しております。災害は予告なくどの地域でも発生します。我が事と思つて十分に配慮いただきたいと思つています。

同窓会員の皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。



## ご挨拶

鈴鹿工業高等専門学校  
 校長  
**竹茂 求**

青峰同窓会の皆様には新任のご挨拶をさせていただきます。私は仙台高専に統合する前の仙台電波高専時代から高専の教員を務め、3年間の長岡高専の校長を経て、今年4月に鈴鹿高専に赴任しました。今回の異動では長岡高専の学生達と離れる寂しさと共に、鈴鹿高専の学生に会える期待がひとしおでした。しかし、新型コロナウイルス対応で入学式は中止となり、6月30日の現時点では8月28日まで登校禁止予定のため、学生には会えず寂しい想いです。幸い、授業は全教職員の大変な努力で5月7日からオンラインの完全遠隔授業を実施中です。課題はありますが、学生からはオンラインの良さも聞こえます。ICT活用を含む新しい教育の世界的動向を背景に、鈴鹿高専は今回の流れを教育改革の絶好の機会と捉え、アフターコロナにおいても従来の対面式授業に拘泥することなく時代に合った効果的な教育を目指す方針を全学的に共有しました。

ところでここ数年、マスコミ報道を初めとして高専に対する社会の注目と期待がこれまでに高く高まっています。その評価は例えば、高等教育機関への運営費交付金が年々減少する中で、高専は高度化や国際化推進等の予算が措置され、僅かですが予算総額が増加していることにも現れています。この評価は何よりも、同窓会の皆様を初めとする高専卒業生のご活躍の賜であることは言うに及ばません。しかし、例えば政府が提示するSociety 5.0に象徴されるように、今日の産業構造の変革によって高度で実践的な技術者がこれまで以上に求められている背景もあります。例えば、人工知能研究の権威である東京大学の松尾豊教授は、高専の教育がイノベーションに求められる素養を

育成していると述べ、この日のために高専があると言っても良い、高専生は日本の宝だと高専生の実践的能力を絶賛しています。このような社会の期待に応えるためのキーワードは、地域連携や国際化による高専の高度化です。各高専は高度化を強く求められており、前述の増予算は高度化を推進するための競争的資金です。

さて、鈴鹿高専は平成30年からキャンパス内に“産学官協働研究室”を設置し、企業技術者・本校教員そして学生による協働研究を推進しています。令和2年の6月には(株)光機械製作所と4番目の産学官協働研究室を設置しました。産学官協働研究室は、産と学の物理的壁がない上に資金などソフト面でも敷居が低く設定され、地域連携の理想的モデルの一つと考えます。喜ばしいことに令和2年度にはそれが高く評価されて、鈴鹿高専の産学官協働研究室の仕組みを全国の高専に展開する事業が、高専発「Society5.0型未来技術人材」育成事業“GEAR5.0未来技術の社会実装教育の高度化”に採択されました。具体的には「K-CIRCUITが牽引する高度先端マテリアル社会実装研究・教育」のテーマで、鈴鹿高専を中核校として4つの協力校と9つの連携校と共に、全国の高専を牽引して地域連携の高度化を推進します。

高専は中学生の僅か1%が進学するマイナーな存在に見えますが、実は毎年1万人が高専に入学し、大学の工学部を含めて高等教育を受けた技術者の1割は高専出身者です。全国の51国立高専がこのスケールメリットを真に活かして連携することができれば、無限の可能性はあるはずで、産学官協働研究室を全国展開する事業もその可能性へのチャレンジと考えています。全国の各地でご活躍されている青峰同窓会の皆様には、鈴鹿高専そして高専全体へのご支援を今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

# 卒業生からの便り

## 鈴鹿高専親睦ゴルフ大会

10月の記念大会を控え今までの活動を組織も交えご紹介します。  
 鈴鹿高専卒業生を対象とした懇親機会としてスタートしました。  
 その後職員・女子・現役を含めた(趣味の)会として  
 幅広い懇親の場になるようよう運用しています。



### ●歴史

平成25(2013)年5月19日に「加藤先生を囲む会」を開催。その後の「食事会」で、「今後のOB会は…」から「趣味のゴルフ」の話となり、最後に「鈴鹿高専OB 親睦ゴルフ大会を是非やろう。四人(1期星野・太田見・小手川・7期伊藤栄)が発起人となり、五人(1期川路・大西・6期加藤・9期川口・10期藤川)の幹事(現在の年次連絡員)も決まり、27年5月30日(土)に第1回が鈴鹿CCで開催に。10組40名が参加して開催されました。春は北勢、秋は中・南勢地区のゴルフ場で開催して、今年10月が、第10回になります。

### ●組織

**実行委員会(委員5名)**  
 コンペ開催に関する決定  
 1期 小手川・長谷川、6期 加藤  
 7期 伊藤栄、9期 川口

**各年次会員**  
 登録106名(右表参照)  
 延べ367名コンペに参加

**事務局**  
 コンペの企画・実行を担当  
 持回りで、現在は7期生8名  
 (電気科)伊藤栄・眞、川原、望月  
 (化学科)中野、松尾、大井、鳥居

**各年次連絡員 24名**  
 (右表参照)



期生	同期人数	入学年	学科	会員氏名	第1連絡員	参加計
1期	1	37	M	小島 肇	小手川 智	8
1期	2	37	C	星野 克明	〃	7
1期	3	37	M	長谷川 俊男	〃	6
1期	4	37	E	太田見 雅彦	川路 茂市	4
1期	5	37	E	川路 茂市	川路 茂市	1
1期	6	37	E	益川 賢市	〃	1
1期	7	37	C	大西 正博	〃	0
1期	8	37	C	小手川 智	〃	7
1期	8	37				8
2期	1	38	M	横山 義彦	宮本 哲夫	3
2期	2	38	M	宮本 哲夫	〃	3
2期	3	38	M	川西 宏次	〃	2
2期	3	38				8
3期	1	39	E	橋本 正敏	石塚 進	1
3期	2	39	C	石塚 進	〃	1
3期	3	39	M	中井 一久雄	〃	1
3期	3	39				3
4期	0	40				0
5期	1	41	M	杉本 勇喜一	鈴木 幸行	2
5期	2	41	M	鈴木 幸行	〃	7
5期	3	41	C	立磨 士郎	〃	2
5期	4	41	M	平野 広行	〃	3
5期	4	41				14
6期	1	42	E	藤村 勝久	加藤 友治	5
6期	2	42	E	内田 賢久	〃	2
6期	3	42	M	中谷 孝	〃	5
6期	4	42	E	荒木田 秀明	〃	3
6期	5	42	C	野崎 博史	〃	9
6期	6	42	M	中村 和郎	〃	1
6期	7	42	C	浜口 精隆	〃	3
6期	8	42	C	諸戸 眞	〃	8
6期	9	42	C	志水 秀成	〃	3
6期	10	42	C	櫻田 正彦	〃	2
6期	11	42	C	稲垣 貴史	〃	2
6期	12	42	C	福田 健	〃	1
6期	13	42	C	田中 高好	〃	8
6期	14	42	C	北口 利美	〃	2
6期	15	42	H	久保田 隆志	〃	4
6期	16	42	C	杉森 正秋	〃	8
6期	17	42	M	岡野 喜男	〃	1
6期	18	42	M	疋田 一美	〃	6
6期	19	42	M	原 雅人	〃	3
6期	20	42	H	稲垣 正則	〃	3
6期	21	42	C	加藤 友治	〃	8
6期	22	42	C	堀部 尚之	〃	2
6期	23	42	H	北岡 弘	〃	1
6期	24	42	C	高橋 敏雄	〃	1
6期	25	42	C	横山 和美	〃	1
6期	25	42	C			92
7期	1	43	C	中野 郁雄	中野 郁雄	9
7期	2	43	C	松尾 文夫	〃	8
7期	3	43	C	大井 豊	〃	3
7期	4	43	C	鳥居 信吾	〃	3
7期	5	43	E	伊藤 栄一	伊藤 栄一	8
7期	6	43	E	伊藤 眞	〃	8
7期	7	43	E	川原 康夫	〃	4
7期	8	43	E	望月 照文	〃	4
7期	9	43	H	上島 憲	〃	0
7期	9	43				47
8期	1	44	C	井坂 宗晴	井坂 宗晴	5
8期	2	44	C	小崎 充雄	〃	1
8期	1	44				6
9期	1	45	M	川口 宗弘	藤川 勝彦	3
9期	2	45	C	林 司	〃	1
9期	3	45	H	長谷川 仁	〃	2
9期	4	45	M	山口 眞	〃	6
9期	5	45	M	鈴木 誠	〃	7
9期	6	45	H	千種 敏一	〃	5
9期	7	45	H	藤川 勝彦	〃	9
9期	8	45	H	松見 秀敏	〃	9
9期	9	45	H	西川 幸嗣	〃	9
9期	10	45	M	南部 勲	〃	5
9期	11	45	H	山中 伝男	〃	4
9期	12	45	H	池田 義彦	〃	4
9期	12	45				64

期生	同期人数	入学年	学科	会員氏名	第1連絡員	参加計
10期	1	46	C	近藤 幸生	長坂 伸司	2
10期	2	46	C	長坂 伸司	〃	4
10期	3	46	C	森川 昌由	〃	1
10期	4	46	C	小松 和義	〃	1
10期	4	46				8
11期	1	47	M	相地 敏之	寺本 勝治	4
11期	2	47	M	山中 広	〃	3
11期	3	47	M	寺本 勝治	〃	6
11期	4	47	M	小林 茂樹	〃	4
11期	5	47	M	小野 勝義	〃	1
11期	5	47				18
12期	1	48	M	室 眞市	室 眞市	5
12期	2	48	M	酒井 正美	〃	0
12期	3	48	M	安田 忠利	〃	6
12期	4	48	C	太田 友美	寺本 正和	2
12期	4	48				12
13期	1	49	M	寺本 正和	寺本 正和	8
13期	2	49	M	柳川 和英	〃	4
13期	3	49	M	望月 哲弥	〃	5
13期	4	49	M	石田 浩之	〃	1
13期	5	49	M	水谷 誠吾	〃	2
13期	6	49	M	藤松 浩二	〃	2
13期	6	49				22
14期	1	50	C	打田 武	伊藤 彰	4
14期	2	50	H	伊藤 彰	〃	1
14期	2	50				5
15期	0	51				0
16期	1	52	H	三林 浩	三林 浩	5
16期	2	52	H	柏木 忠浩	〃	2
16期	3	52	H	山本 武	〃	1
16期	3	52				8
17期	0	53				0
18期	0	54				0
19期	1	55	H	榊 茂之	榊 茂之	2
19期	1	55				2
20期	1	56	H	若林 容次	長岡 信治	1
20期	2	56	C	水野 淳	〃	1
20期	3	56	C	鈴木 茂	〃	3
20期	4	56	C	長岡 信治	〃	2
20期	4	56				7
21期	1	57	H	鏡 誠	鏡 誠	1
21期	1	57				1
22期	1	58	M	中島昌彦	中島 昌彦	2
22期	1	58				2
23期	1	59	E	坂井 浩美	坂井 浩美	1
23期	1	59				1
24期	1	60	C	藤島 智文	藤島 智文	2
24期	1	60				2
25期	0	61				0
26期	0	62				0
27期	0	63				0
28期	1	h01	S	蔵城 剛憲	一柳 功	2
28期	2	h01	S	一柳 功	〃	2
28期	2	h01				4
29期	1	h02	M	藤川 徹也	〃	2
29期	1	h02				2
30期	0	h03				0
31期	0	h04				0
32期	1	h05	S	久保 千穂	田畑 華奈子	1
32期	2	h05	S	田畑 華奈子	〃	1
32期	2	h05				2
33期	1	h06	E	大橋 高光	〃	1
33期	1	h06				1
40期	1	h13	S	水野 聡	〃	
40期	1	h13				
53期	1	h26	電情	堤 楽人	堤 楽人	1
53期	1	h26				1
						参加 367
						棄権(当日) 3

### 連絡員さんと参加者一覧

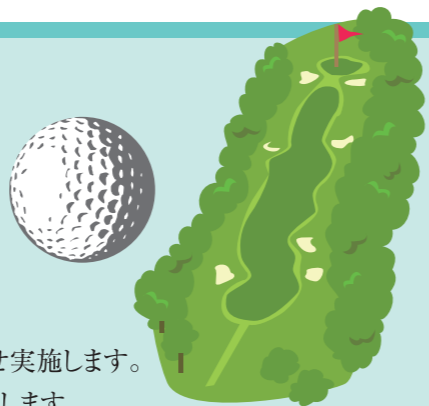
2020年6月25日 現在

課題: 4、15、17、18、25~27、30期以降の参加者獲得。この記事を見て是非ご連絡を!!



## 【第10回】記念大会

- 開催月日／令和2年10月17日 土曜日
- 会場／鈴鹿カンツリークラブ(第1回開催の記念会場)
- コース／中コース(チャンピオンコースを堪能下さい!)
- スタート／OUT/IN同時スタート 第1組 9時～。
- その他／事務局の受付はありません。記念撮影並びに開会式は、各組毎にソーシャルディスタンスを守り、ルール説明も併せ実施します。  
・表彰式と閉会式は、コロナ対策を踏まえた適切な対応をします。  
・参加費1000円は、各年次の連絡員の方にお渡し戴き、事務局が年次毎に一括徴収します。  
・プレイ費 総額14,500円。セルフ・乗用・昼食・表彰式のソフトドリンク付
- ルール／ダブルベリア方式。打数制限:ダブルパーカット。トータルHDCP上限は40。6インチプレース有。1グリップ(30cm)以内のOKパットあり。



## 【第9回】

コロナにより中止

- 開催月日／令和2年5月26日(火)
- 会場／三重カンツリークラブ



第9回 参加者(三重CC)

入学年	学科	氏名	入学年	学科	氏名	入学年	学科	氏名	入学年	学科	氏名
37	M	小島 肇	42	C	横山 和実	43	E	伊藤 栄一	48	M	室 眞市
37	E	太田見雅彦	42	E	藤村 勝久	43	E	川原 康夫	48	M	安田 忠利
37	M	長谷川俊男	42	C	諸戸 眞	44	C	小崎 充雄	49	M	寺本 正和
37	C	小手川 智	42	C	杉森 正秋	44	C	井坂 宗晴	49	M	水谷 誠吾
37	C	星野 克明	42	C	浜口 精隆	45	H	藤川 勝彦	49	M	望月 哲弥
38	M	横山 義彦	42	C	田中 高好	45	H	松見 秀敏	49	M	柳川 和英
38	M	宮本 哲夫	42	C	堀部 尚之	45	H	山中 傳男	49	M	藤松 浩二
41	M	鈴木 幸行	42	C	野崎 博史	45	H	西川 幸嗣	56	C	鈴木 茂
42	M	中谷 孝	43	C	松尾 文夫	45	H	池田 義彦	56	C	長岡 信治
42	C	加藤 友治	43	E	伊藤 眞	48	C	太田 友美	h02	M	藤川 徹也
42	M	疋田 一美	43	C	中野 郁雄	48	M	酒井 正美			

## 【第8回】

大型台風19号により中止

- 開催月日／令和元年10月12日(土)
- 会場／榊原ゴルフ倶楽部



第8回 参加者(榊原CC)

入学年	学科	氏名	入学年	学科	氏名	入学年	学科	氏名	入学年	学科	氏名
37	M	長谷川俊男	43	E	伊藤 栄一	45	H	池田 義彦	49	M	藤松 浩二
37	C	小手川 智	43	E	伊藤 眞	46	C	長坂 伸司	52	H	山本 武
37	E	太田見雅彦	43	E	川原 康夫	47	M	寺本 勝治	58	M	中島 昌彦
41	M	鈴木 幸行	44	C	井坂 宗晴	47	M	小林 茂樹	60	C	藤島 智文
42	C	野崎 博史	44	C	小崎 充雄	48	M	安田 忠利	h01	S	蔵城 剛憲
42	C	疋田 一美	45	M	鈴木 誠	48	C	太田 友美	h01	S	一柳 功
42	C	田中 高好	45	H	千種 敏一	49	M	寺本 正和	h02	M	藤川 徹也
42	C	諸戸 眞	45	H	藤川 勝彦	49	M	柳川 和英	h05	S	久保 千穂
42	C	加藤 友治	45	H	松見 秀敏	49	M	望月 哲弥	h05	S	田畑華奈子
43	C	中野 郁雄	45	H	西川 幸嗣	49	M	石田 浩之	h13	S	水野 聡
43	C	松尾 文夫	45	M	南部 勤	49	M	水谷 誠吾	h26	電情	堤 楽人

## 【アンケート】

### 第6回コンペ参加者 47名に聞きました。

H30年10月13日

確かに上手い方はおられます。が、大半は、ゴルフ歴は長いですが、(現役の時)少ない小遣で年2、3回がやっと。大半の方は、100切りで満足が実態。ゴルフ歴の短い女性や現役も参加する様になってきて楽しい同窓会です。

年齢	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~72
人数	2	4	4	16	17	4
勤務	現役 18 38%	シニア 10 21%	パート 6 13%	無し 13 28%		
ゴルフ歴	10年未満 4 9%	10~20年 13 28%	20~30年 2 4%	30年以上 28 60%		
ベストスコア	70未満 2 4%	70~79 13 28%	80~89 21 45%	90~99 10 21%	100~109 0 0%	110以上 1 2%
ラウンド年間	~12回 15 32%	13~24回 13 28%	25~36回 7 17%	37~48回 8 15%	49回以上 7 9%	
練習場	年11回以下 12 26%	月1回 21 21%	月2回 9 19%	月3回 4 9%	月4回 12 26%	
目標スコア	120切り 1 2%	100切り 10 21%	90切り 22 47%	80切り 11 23%	70切り 1 2%	エイジシュート 2 4%
限界は(複数回答)	体力 20 38%	スコア 13 25%	飛距離 19 37%			

## 追憶

南井剛 (H04E卒)

校門を大きな一歩入学す  
「知徳体」の石碑は今も風薫る  
黒板は数式ばかり三尺寝  
フラスコの化学反応七変化  
新緑やテニスコートに弾む声  
ラマダンを留学生と祝いけり  
ニュートンの重さ手の中青りんご  
炎帝にソーラーカーの疾走す  
秋の蝶サイレンコサイレン描きけり  
ナノテクの記事読む朝は天高し  
F1のレースの地鳴り秋の風  
女教師に少しときめき秋桜  
魂の叫び声かと寒稽古  
大試験机上に刻む音響く  
ネクタイに時間をかけて卒業す



## 高専祭開催時の親睦会ご案内

ここ数年下記の親睦会が開催されてきましたが、コロナの影響で???  
詳しくは鈴鹿高専のホームページを参照ください。

1. 卒業生の集い
2. 硬式テニスの集い
3. 香風会の集い
4. 柔道部OB会



## 2019年度 青峰同窓会 会計報告

収入の部	摘要	金額(円)
	平成30年度からの繰越金	28,109,666
	2019年度新入会員(平成30年度卒業生)入会金・終身会費(184名)	2,024,000
	預金利息	2,073
	合計	30,135,739
支出の部	摘要	金額(円)
	会報発行経費	972,363
	事務費	47,242
	先進的エンジニア育成基金寄付(2019年度分)	1,000,000
	2020年度への繰越金	28,116,134
	合計	30,135,739

## 退職教員挨拶



### 定年退職を迎えて

生物応用化学科  
長原 滋  
(52C卒)

昭和52年(1977年)3月に本校工業化学科(平成9年度より生物応用化学科に改組)を卒業し、同年4月に工業化学科の助手として採用され、学生時代の5年間と教員としての43年間にわたり大変お世話になりました。

本校に入学した昭和47年は、創立十周年を記念する一連の事業が行われ、正門右脇に校歌の碑が建立されました。水泳プールや電算機室(平成14年に共同研究推進センターに改装)も完成し、現在とほぼ同様な施設が整備されていました。5年在学中の昭和51年は、二代目校長となられた工業化学科の矢野 弥先生(在任期間:昭和37年~昭和51年;校長在任期間:昭和52年~昭和59年)が教務主事、工業化学科主任、5年学級担任を兼務されており、工業化学科の助手としてお誘いいただきました。

教員としては、担当授業、学級担任、テニス部・ソフトテニス部・バドミントン部の顧問、創造工学・卒業研究・専攻科特別研究、担当校務分担、青峰同窓会活動など学生・教職員の皆さまとの沢山の思い出がよみがえってきますが、教育や研究に対するポリシーや情熱などを意識すらしなかった若かりし頃、いろいろな方々から有形無形のご指導・薫陶を受けました。

助手の仕事は学生実験の準備と実験指導の補助で、在学中もご指導いただいた技術職員の

堀田忠雄先生(在任期間:昭和38年~昭和52年)、長谷川善哉先生(在任期間:昭和39年~平成11年)、松村 哲先生(在任期間:昭和45年~平成17年)に手取り足取り教えていただきました。プライベートでも長谷川先生には真鯛やイサキの船釣り、松村先生には磯釣りなどの手ほどきを受け、公私共に大変お世話になりました。

矢野校長には昭和54年に東京工業大学工学部に内地研究員(10ヵ月間)として派遣していただき、初めての研究論文の共著者としてその研究成果が発表された際にはとても感激しました。内本勤先生(在任期間:昭和53年~昭和61年)には内本研究室に配属された卒研究生の研究指導を担当させていただき、楽しく研究に打ち込むことができました。さらに、三代目校長となられた英語担当の久保田郁夫先生(在任期間:昭和41年~昭和59年;校長在任期間:昭和60年~平成4年)と工業化学科の富澤好太郎先生(在任期間:昭和62年~平成21年)のご尽力により、平成元年にも名古屋大学工学部で内地研究員として過ごすことができました。世界的業績を上げられている研究室で二度も研究させていただいたことはかけがえのない経験になりました。

今日あるのはこれらの方々、在学中に引き続きお世話になった先生方に加えて、同僚の教職員の皆さまのおかげであると心より感謝申し上げます。



### 定年退職の挨拶

電気電子工学科  
奥田 一雄  
(52E卒)

月日が経つのは本当に速いもので、令和2年3月末(2020年)をもって定年退職することになりました。現在まで何とか人並みに業務をやり遂げることが出来たのは、教職員の皆様や学生諸君の御協力があったことで、この場を借りて改めて感謝の気持ちを申し伝えたいと思います。今まで何かとお世話になり、ありがとうございました。

さて、定年退職の挨拶ということですが、私の経歴と現在までの経緯について簡単に述べさせていただきます。私は昭和47年(1972年)に本校「電気工学科」に入学後、広島大学工学部第Ⅱ類(電気系)、東京工業大学総合理工学研究科エネルギー科学専攻を経て三菱重工業株式会社高砂製作所品質保証部品質保証課に入社しました。三菱重工業に在職中は「原子力や火力発電プラントなどの品質保証業務」を担当する一方で、システムエンジニアとして、部内業務全般のO/A化を目的とした「品質保証記録管理システム」「購入品管理システム」などの新しいシステム作りと業務改善の仕事に携わっておりました。

毎日が仕事に明け、仕事に暮れるという忙しい日々でしたが、年始挨拶で私の恩師である本校山口慎司教授宅に伺った際に、「鳥羽商船の新しい学科で教員を募集しているけど奥田君やってみる気はない?」と声を掛けていただきました。学校の教員になることには昔から興味がありましたが、そのときは結婚後間もない時期でもあり、どうしようかとかなり悩みましたが、当時の鳥羽商船の校長先生から「君は本当に先生に向いているよ。一緒に

やってくれないか?」などの一言に押され、平成元年(1989年)4月に鳥羽商船高等専門学校制御情報工学科に赴任することになりました。

鳥羽商船赴任後は給料も激減し、企業と学校の生活習慣の違いに戸惑うことも多かったですが、学生達との語らいを通じて、教員の難しさと同時に、教員としての楽しみを経験することが出来ました。教員生活にも慣れ、数年が経過したころ、本校電子情報工学科から非常勤講師の依頼があり、2年生と3年生に電気電子工学基礎、電子計測、電気機器などの授業を5年間担当しました。その後、再度、恩師の山口慎司教授から「電気工学科で教員を募集しているのだから、奥田君、一緒にやってくれないか?」とお誘いがあり、平成12年(2000年)に鈴鹿高専に赴任し、現在に至っております。

私の教員生活は上記のように鳥羽商船11年間、鈴鹿高専19年間の計30年間となります。その間、学級担任、クラブ関係(ラグビー部部長、その後、音楽部顧問)、図書館主事補、学生主事補、学生支援室長、学科長、図書館長などの役職を担当しました。私自身どの程度本校に寄与できたかは全く自信がないところですが、電気電子工学内では、常に「学生第一」と「わかりやすい授業」をモットーに学生諸君とは深く関わってきたつもりです。特に、卒業・修了間際の学科生や専攻科生の就職や進学に関する支援に対して自分なりに精一杯取り組むことが出来たことが教員としての自信とやりがいとなりました。

定年退職を機にリタイアしようと考えておりましたが、最近の高専を取り巻く環境の変化、特に教員の定員削減などもあり、微力ながら協力できることがあればと思い、少なくとも来年度は嘱託教授として、授業担当や学生相談などで何らかの役割を果たしていくことが出来ればと考えていますので、今後ともよろしくお願ひします。

## 新任教員挨拶



### 定年退職のご挨拶

電気電子工学科  
近藤 一之  
(52E卒)

青峰同窓会の皆様、コロナ禍の状況ではございますが、お元気でお過ごしのことと思います。私、令和2年3月末に鈴鹿高専を定年退職いたしました。皆様にはこれまで大変お世話になりました。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。4月以降も雇用延長で週に4日学校に出てきております。居室もそのまま使わせてもらっていますので、これらの点においては退職前と余り変わりはありません。

大きく変わったことは、5月連休明けより始まったオンライン授業への対応です。火・水・木の授業のために土・日・月に1科目ずつパワーポイントのファイルを準備する日々を過ごしております。まさに自転車操業の大変な状態ですが、オンライン授業の準備をすることに何かしら楽しい面も感じています。事前に「この図を出して、あの表のこの部分を強調して、この図に書き込む」などと、どのようにすればわかりやすくなるか考えながらスライドを作ることが面白いのだと思っています。大変な作業でしかも老眼でパソコン画面が見にくいのに、楽しく感じるのは自分ながら誠にめでたい性格だと少々あきれるところもあります。

近況報告はこのくらいにしましょう。私は昭和52年3月に鈴鹿高専を卒業し、民間企業に3年間、静岡大学電子工学研究所に4年間お世話になった後、昭和59年(1984年)4月に鈴鹿高専電気工学科(2003年度より電気電子工学科に改称)へ助手として赴任しました。当時は6名の卒業生教職員がみえました。私から見ると、皆様そうそうたる方々であり、この後自分自身も余程の努力をして行かなくてはならないと身の引き締まる思いでありました。その後もSHTN(鈴鹿高専ヒューマン&テクノロジーネットワーク)などでお会いする学外でご活躍の先輩方のパワーには圧倒されてお

りました。このように私には、青峰同窓会と言えば立派な先輩方に囲まれた集まり、というイメージがありました。しかし、今年3月の卒業生は55期生の皆さんであり、私(11期生)にとっては後輩同窓会員となります。先輩方より後輩の皆様が4倍以上多いのです。随分と年月が経ったのだと感慨深い思いがします。自分の体も経年劣化により、メンテナンスが必要な部品も少々ありますが、気持ちは若々しく、チャレンジ精神を持って、これからも進んで行こうと思っています。

鈴鹿高専赴任当初は「先生」と呼ばれることに何か違和感を覚えました。自分は何も成長をしていないのに、という気持ちがあったのだと思います。それでも、これは仕事だからと割り切って一生懸命演じてきたという面もあります。担当する授業・学生実験の他にも、学級担任、教務・学生・寮務の各主事補、専攻主任、電気電子工学科長、図書館・研究・寮務の各主事などに任せられそれぞれの役割を一所懸命務めてまいりました。当時の学生の皆さんにはもしかするとご迷惑をおかけしたこともあるのかと心配しております。私としては最善を尽くして頑張ってきたと言うことでご了解を願いたいと思います。

研究面ではスイッチトキャパシタ回路の研究に取り組み、1990年に工学博士の学位を授与されました。一昨年から校務分担がほとんどなくなり、久しぶりに余裕をもって研究に取り組むことができました。今更頑張らなくてもいいのに、という意見もありましたが、昨年7月末に電子情報通信学会へ論文を投稿し、厳しい査読を通り、2020年和文論文誌Aの5月号に掲載していただくことができました。このように頑張れたのは、ある学生が「自分は後になってから『もっと一生懸命にやっておけばよかった』ということは言いたくなかった。だからその時々最善を尽くしました」と話すのを聞き感銘を受けたことがきっかけです。その他にも学生の皆さんから直接・間接に教えていただいたことがたくさんありました。

今までお会いした全ての皆様のお蔭を持ちまして、楽しくて有意義な鈴鹿高専での時間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございました。



### 着任のご挨拶

教養教育科 講師  
笹岡 伸矢

今年度4月より着任いたしました。笹岡伸矢と申します。所属は教養教育科人文社会教室です。担当科目は、政治・経済、技術者倫理入門、技術経営、経済学になります。

出身は静岡県で、大学から一貫して政治学を修めてまいりまして、政治学で博士号を取得しました。これまで、大学や専門学校で政治学を主に教えてきて、他の高専でも非常勤講師として勤めた経験もあります。

私の専門は比較政治学で、政治体制の民主化を研究テーマの1つとしてきました。大学院生の時はソ連の崩壊を扱い、現在は、女性参政権の問題について研究を始めています。なぜ女性に参政権が認

められていなかったのか、という価値的な問題関心もありますが、むしろ、先に参政権を獲得し、議会に入った、既得権益を持つ男性政治家がなぜ、どのように女性参政権を認めたのか、もしくは認めなかったのかに関心があります。

コロナ禍のなか、本来は経験すべきことをほとんど経ないまま、着任から3か月になろうとしています。学生のいない校舎、オンライン授業、行われないうちの歓迎会、まだお話ししたことの無い教職員の皆さん。これらが私の鈴鹿高専での日常になっています。高専は忙しい、と聞いていた私ですが、この現状についてはなんとも言えない気分です。その分、まったく教えたことのない授業科目の準備に時間を充てられていることは、不幸中の幸いだと考えています。

これまで様々な場所で、様々なタイプの学生を相手に教鞭をとってきました。非常勤講師の時代も含めて、教員生活も15年目になりました。ですが、新しい環境で、新人として、一生懸命頑張っていく所存です。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



### 着任のご挨拶

電子情報工学科 講師  
佐藤 弘一

本年度より電子情報工学科に着任いたしました佐藤弘一と申します。専門は、理論物理学、特に、原子核物理学や量子多体論の研究をしています。

出身は愛知県で、京都大学で博士号(理学)を取得いたしました。学位取得後は、113番元素Nh(ニホニウム)を発見し話題になった理化学研究所(理研)仁科加速器研究センターで、原子核理論の研究に取り組みました。私は大学院生の時から理研で研究を行っており、実はニホニウムの発見者であり名付け親の森田浩介さんとはすぐ隣の部屋同士でした。理研は世界中から優秀な研究者が集まっており、その様な環境で研究に取り組めたことは大きな財産となっています。理研での研究の後、大阪市

立大学で特任講師として、物理の教育研究に従事しました。

ここで専門について簡単にご紹介したいと思います。この世界の物質を構成する原子の中心に存在するのが原子核です。原子核は数個~数百個の陽子と中性子からなる多体系で、シュレディンガー方程式(量子力学の基礎方程式)を厳密に解くことができません。そこで、私は集団の運動に本質的な自由度を抜き出すことで、原子核の集団的振る舞いを記述する理論を作っています。この理論が発展すれば、放射性廃棄物の核変換や、宇宙における元素合成シミュレーションなどへの応用にも繋がります。

現在、コロナ禍のため、社会全体が大きく影響を受けています。私は科学者ですが、科学の第一歩は常識を疑うことです。学生の皆さんには高専での教育を通じて、知識や技術だけでなく、既存の常識にとらわれない科学の精神を培い、物事に柔軟に対応できる人材に育ってほしいと考えてます。皆様のご協力・ご理解をよろしくお願ひいたします。

鈴鹿高専青峰同窓会の皆様へ

## 鈴鹿高専テクノプラザ支援事業： 人材専門企業を利用し不安のないUターンを支援

本校の卒業生は約1万人を超え、全国の企業、団体等で活躍されています。順調な社会生活を送るかたわら、お盆やお正月に帰省した際に両親の老後や先祖伝来のお墓、田畑を心配される方もおられるのではないのでしょうか。

三重県では県外への人材流出が見受けられ、約130社のテクノプラザ会員企業でも即戦力の技術者が不足しており、卒業生のUターンを切望しています。テクノプラザ会員企業の多くは高専OBが働く企業ですので、安心して仕事に取り組めると考えております。人生100年と言われる昨今、会社で培った技術・ノウハウを故郷の企業で生かしてみませんか。また、知識、経験を生かした

新たな職種へのチャレンジをしたいと思いませんか。

職業安定法に基づく実務は、会員企業でもある職業紹介専門企業が行います。皆様のコンサルティングを通じて、地域、職種はもちろん技術経験から、不安なく転職頂けるサポートメニューを準備してお待ちしております。テクノプラザには専任コーディネータもおりますので、まずはお気軽に相談ください。

会員企業には中京地区企業もありますし、シニア専門職を求めている企業もあります。鈴鹿高専テクノプラザホームページに求人情報等を今後掲載することとしておりますので、時々、ご確認頂けますと幸いです。



### 職業紹介専門企業の 支援のもとで不安なく転職

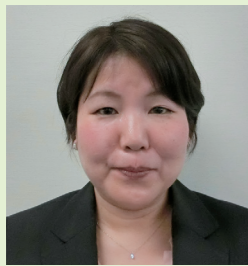
鈴鹿高専テクノプラザ ホームページ <https://www.suzuka-ct.ac.jp/facilities/techno-plaza/>

### 産官学連携でものづくり支援 ～鈴鹿高専テクノプラザ～

2013年(平成25年)に産官学の連携を構築し、製造業の課題に寄り添った教育・研究を振興し、地元企業の発展に与すべく「鈴鹿高専テクノプラザ」を設立し8年目を迎えております。現在は、企業会員132社、特別会員13団体、個人会員18名です。また、テクノプラザの活動を更に充実させるために、企業会員及び個人会員の増強を進めています。特に企業会員は150社以上を目指しております。会員企業としてご登録頂ければ、共同研究等を通じて共存共栄できると思います。

お問合せ・お申込みは、**鈴鹿工業高等専門学校 総務課(鈴鹿高専テクノプラザ事務局)**  
右記連絡先までお気軽に! TEL:059-368-1717 E-mail:technoplaza@jim.suzuka-ct.ac.jp

### 着任のご挨拶



材料工学科 准教授  
**黒飛 紀美**

材料工学科に着任いたしました黒飛紀美(くろとびきみ)と申します。東京理科大学理学研究科物理学専攻にて血液適合性材料のテーマで学位を取得したのは、RIKEN、NIMS、静岡大学、ソニー株式会社と任期付きの研究員を歴任しました。その後は山口県にある山口東京理科大学で講師として採用され、一般基礎科目の物理と数学を教えておりました。山口にいた8年ほどの間、自転車部の顧問に就任し、ロードバイクで野山を走っておりました。このままこれいいのか...と思っていた矢先、鈴鹿高専の教員公募がありました。伊勢神宮初参拝もかねてダメもとで模擬授業面接を受けたのを昨日のここのように覚えております。

現在、新型コロナウイルスの流行で本学も遠隔授業になっております。人影の少ない校舎は野生動物がかなり謳歌していて、先日は校舎の桜の近くで蛇を見かけました。居室の前には、何か所も鳥の糞が落ちていて。そんなのどかな、しかしながら非現実的な毎日を過ごしております。授業は「材料環境科学」を担当しておりますが、顔が判らないと名前が覚えられません。きっと素朴な学生がパソコンの前にずっと張りついているのだろう。友達に会えず、就活をしたり、レポートを書いたり大変だと思います。

後期から4年生が卒研生として前倒しで配属されます。それに向けて、どうにかテーマを立ちあげることができました。以前、誘電泳動法を用いて粒子の搬送を行っていたことがありました。泳動に満たない印加電圧条件下では粒子がジグザグと運動する現象を、微小空間における溶液の攪拌に応用したいと考えています。幸運なことに粒子を専門とされている先生もおられます。これからその実験を行っていきます。与えられた研究人生を頑張って精進していきたいです。

### 着任のご挨拶



材料工学科 助教  
**河合 里紗**

本年度から材料工学科に着任いたしました河合里紗と申します。出身は岐阜県関市で、奈良女子大学の理学部化学科に進学し、今年の3月に同大学院で博士(理学)を取得しました。それにしても鹿に縁のある人生だなと感じています。

専門分野はコロイド・界面化学です。有機化学に思われがちですが、物性物理化学分野です。両親親水性イオン液体の合成と物性を主として、大学院では企業との共同研究も含めてさまざまな界面活性剤の構造と物性に関する研究をしてきました。界面活性剤は、分子内に親水基と疎水基の相反する性質(両親媒性)の構造をもち、界面に吸着してその性質を変えることができるため、日用品、化粧品、食品、

医療など幅広く活躍しています。界面は私たちの生活から切り離せないものであり、界面現象を分子レベルで制御できる魅力に惹かれて界面化学の研究をしています。

私が大学受験の頃の3月は、東日本大震災がありました。それから9年が経ち、今年は新型コロナウイルスで世界中が大混乱を招きました。5月から人生初の授業(しかもオンライン授業)が始まり、戸惑いを隠せない状態でしたが、鈴鹿高専の熱心な学生たちに刺激を受けながら過ごしております。女子大卒というおしとやかで華やかなイメージかもしれませんが、男子に頼ることが一切ないので肉体的にも精神的にも強くなれたと感じています。教育に不安はありましたが、縁あって鈴鹿高専に着任することができましたので、研究を通して教育者としても成長していけたらと思っております。

最後になりますが、鈴鹿高専で新しく研究の道が開けることを楽しみに日々精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。